

国立京都国際会館における「京都らしい設え」の実施について

1 趣旨・目的

国立京都国際会館は、豊富な文化資源に恵まれた日本文化の発信拠点とも言うべき京都の強みをいかし、海外からお越しいただく多くの方に、我が国の文化に直触れていただくことで、日本文化の素晴らしさを堪能いただき、我が国に対する理解と友好を深めていただくことができる国内随一の施設です。

現在、国立京都国際会館では、国において新たな多目的ホールの整備が進められており、この新施設の一部に、本市と公益財団法人国立京都国際会館（以下「財団」といいます。）が連携し、京都ならではの付加価値として「京都らしい設え」を施すことにより、日本文化の発信はもとより、京都ならではの魅力を備えた本市独自のMICE戦略の推進や本市の伝統産業の振興につなげることを目的に、取組を進めています。

2 実施方針

「京都らしい設え」については、多目的ホールの顔とも言えるロビーや控室の内装と調度・備品に、京都の伝統産業や伝統工芸等をいかした設えを施すことにより具体化を図ることとし、財団が施す「京都らしい内装」にふさわしい「京都らしい調度・備品」を本市が制作することとしています。

3 調度・備品の制作に向けた今年度の取組

本市においては、多目的ホールの竣工（平成30年6月予定）に間に合うよう、「京都らしい調度・備品」の制作に向け、今年度は、具体的な仕様や調達方法について検討を行うこととしています。

この検討に当たっては、「京都らしい調度・備品有識者懇談会」において、専門的な見地から幅広い御意見や御助言をいただきながら、取組を進めてまいります。

【参考】 「京都らしい調度・備品有識者懇談会」の進め方（予定）

テーマ	内容
①基本方針・イメージ	制作に当たっての基本方針，制作する調度・備品のイメージについて
②仕様（その1）	大きさや材質等のイメージについて
③仕様（その2）	詳細な仕様等について
④調達方法	仕様等に応じた適切な調達の仕組みについて